

# 第38章

## ヒラマン 13 - 16 章

### はじめに

イエス・キリストの福音は、あらゆる人に変わる機会を提供する。モルモン書の大部分で、レーマン人は「行いが……悪かった」が、「ニーファイ人の宣教」(ヒラマン 15:4)によって彼らの「大半」が福音を受け入れ(ヒラマン 6:1)、大きな心の変化を経験した。このヒラマン書では、明らかに役割が逆転している。かつては教えを受けた人々が教師となったのである。一方、多くのニーファイ人は、高慢になり、自分たちに与えられた預言者を無視した。その結果、主はレーマン人の預言者を送り、悔い改めて主の来臨に備えるようニーファイ人に警告をお与えになった。ニーファイ人がレーマン人である主の使いに、全体として、また個人としてどのような反応を示したか調べる。サムエルの言葉は主にとってきわめて重要であった。南北アメリカ大陸で自ら教えと導きの業を行われたときに、主がその言葉を是認され、すべては成就すると証されたほどであった(3 ニーファイ 23:9 - 13 参照)。



### 注解

ヒラマン 13:3 「心の中に浮かぶことを、どのようなことであろうと」

・サムエルは、預言者だったが、ニーファイ人に何を<sup>の</sup>宣べ伝えるか決める責任は負っていなかった。ヒラマン 13:3 には、彼は「心の中に浮かぶことを、どのようなことであろうと」教えた<sup>あかし</sup>と書かれている。この啓示の過程に関して、主の言葉はどのように与えられることが多いかという点について、十二使徒定員会のボイド・K・パッカー会長は次のように述べている。

「啓示は『聞く』言葉というより『感じる』言葉としてやって来ます。ニーファイは、天使の訪れを受けたにもかかわらずたくな兄たちに向かって言いました。『あなたがたは心が鈍っていたので、その言葉を感じることはできませんでした。』」[1 ニーファイ 17:45, 強調付加]

聖典には同様の表現があふれています。『心から幕が取り去られ、理解の目が開かれた』[教義と聖約 110:1]、『わたしはあなたの思いとあなたの心に告げよう』[教義と聖約 8:2]、『わたしがあなたの思いを照らした』[教義と聖約 6:15]、『わたしがあなたがたの心の中に入れる思いを語りな

さい。』[教義と聖約 100:5] などのもその一例です。啓示について教える聖句は何百とあるのです。』(『聖徒の道』1995 年 1 月号, 65)

### ヒラマン 13:11 - 16 助かっているのは、幾人かの義人のためである

・時として、悪人であっても、自分たちの中に義人が住んでいたため、恐ろしい破壊から救われたことがあった。ゼラヘムラの邪悪な人々は、破壊から守られたことを義人に感謝しなければならなかった。しかし、もちろん、彼らにそのような意識はなかった。数年後に、ゼラヘムラはこの感謝されることのない暗黙の守りを失い、サムエルの言葉は成就した(3 ニーファイ 9:3 参照)。たった 10 人でも義人が住んでいたなら、あのソドムとゴモラですら救われたことだろう(創世 18:23 - 33 参照)。

わたしたちがどのように生活するかで違いが生まれる。わずかな人間の個人的な義が周囲の人々、とりわけ自分自身の家族や地域社会に住む人々にとって大きな祝福となるのである。

### ヒラマン 13:19 - 22 富と霊性

・十二使徒定員会のダリン・H・オークス長老は、物質主義と霊性の関係について次のように述べている。

「物質そのもの、あるいは物質的な必要を第一に考える物質主義は、明らかに霊性に相対するものです。『虫が食い、さびがつき、また、盗人らが押し入って盗み出すような地上に、宝』を蓄えるべきではないと主は言われました(マタイ 6:19)。わたしたちは天に宝を蓄えるべきです。『あなたの宝のある所には、心もあるからである。』(マタイ 6:21)……」

お金そのものは悪ではありません。良きサマリヤ人はお金を使って同胞<sup>はらから</sup>を助け、ユダは同じお金のために主を裏切りました。『金銭を愛することは、すべての悪の根』なのです(1 テモテ 6:10, 強調付加)。両者の決定的な相違は、この世のものやこの世の経験に対してどの程度霊的な観点から考え、評価し、管理するかという点です。

金銭を崇拜的にしたり、それを第一に置いたりするようになると、人は利己的で高慢になり、『俗世のむなしいものを誇る』ようになります(アルマ 5:37)。それとは反対に、法的な義務を果たすため、<sup>じゅうふん</sup>自分の一やそのほかの献金を納めるためにお金を使えば、誠実さを示し、無私の精神をはぐくむことができます。また、霊的に見て賢明な使い方をするならば、日の栄えのより高い律法を守るための助けになります。』(『聖徒の道』1986 年 1 月号, 60 参照)

## ヒラマン 13:21 - 22

サムエルはニーファイ人がのろいを受けた原因は何だと言っているか。ニーファイ人は何を覚え、何を忘れたのか。このことが日々の生活にあって大切なのはなぜか。

## ヒラマン 13:23 - 29 生ける預言者に従う

• 十二使徒定員会の M・ラッセル・バラード長老は、生ける預言者と使徒に従うことの大切さについて次のように教えている。「さて、愛する兄弟姉妹の皆さん、教会の指導者がこの総大会で教えた事柄にどうぞ注意を払ってください。皆さんと家族にとって助けとなるこれらの教えを生活に取り入れてください。家族との関係、そして天の御父と主イエス・キリストとの関係を強めてくれる預言者と使徒の教えを、家族がどのような環境に置かれているかにかかわらず、一人一人、家庭で実践しようではありませんか。わたしは主の御名によって皆さんに約束します。もし皆さんが耳だけでなく、心によっても聞くなれば、聖霊は〔教会の大管長〕や大管長の顧問、使徒、そのほかの教会指導者のメッセージが真実であることを明らかにしてください。そして皆さんは、御霊によって鼓舞されて、指導者の勧告に従うために個人として家族としてなすべき事柄が分かるようになります。そうするとき、皆さんの証は強められ、平安と喜びが得られることでしょう。」(『リアホナ』2001年7月号, 82 参照)



## ヒラマン 13:38 罪惡は幸福の本質に反する

• サムエルはニーファイ人に、罪惡を行いながら幸福を求めてきたのは幸福の本質に反することであると警告した。この問題、および真の幸福はどのようにしてもたらされるかという点について、十二使徒定員会のリチャード・G・スコット長老は、幸福は義にかなった生活を通してのみもたらされると語っている。

「けばけばしい映像を見せ、騒々しい音楽を聞かせ、あらゆる感覚を必要以上に刺激することによって、サタンは人の思いと心を捕らえようとしていることに皆さんは気づいているでしょうか。サタンは生活をあらんかぎりの活動や娯楽、

刺激で満たすことによって、誘惑の結果についてじっくり考える時間を人に与えないようにしています。このことについて考えてください。最も基本的な神の戒めを破るよう惑わされている人々がいます。退廃的な行為がまるで容認されるかのように、さらには魅力的で好ましいことであるかのように描かれているからです。大した問題は起こらず、むしろ喜びと幸せがいつまでも続くかのようなようです。けれどもこうしたパフォーマンスには台本があって、役者がそのとおりに演じているだけなのだと理解してください。同様にドラマや映画の中でなされた選択の結果も、しょせんはプロデューサーの望むままの形に操作されているだけなのです。

人生はそのようなものではありません。確かに、選択の自由によって人は望むままに選ぶことができますが、その選択によって招く結果を自分の思いどおりにすることはできません。人が作った偽りの物語などとは異なり、天の御父は皆さんの選択の結果を定めておられます。従順は人を幸福に導きますが、神の戒めを破ることによって幸福がもたらされることはありません。」(『リアホナ』2004年5月号, 102 参照)

## ヒラマン 13:38

アルマ 41:10 - 11 はどのように  
ヒラマン 13:38 と関連しているか。罪を犯しながら  
幸福を見いだすことができないのはなぜか。

## ヒラマン 14 章 救い主の降臨に関するサムエルの預言

• 聖文に記されている最も具体的な預言の一つは、イエス・キリストの誕生と死に関するサムエルの預言である。以下の表はサムエルの教えを概説している。その中には、キリストの誕生と死およびその成就の記録、そして民を導いたサムエルの教えが含まれる。

救い主の誕生に関する預言		成就
ヒラマン 14:2	5 年後に誕生	3 ニーファイ 1:13
ヒラマン 14:3 - 4	誕生前の夜は暗くならない	3 ニーファイ 1:15
ヒラマン 14:5	新しい星	3 ニーファイ 1:21

救い主の誕生に関する預言		成就
ヒラマン 14 : 6	天には多くのしるしと不思議	ヒラマン 16 : 13 ; 3 ニーファイ 2 : 1
ヒラマン 14 : 7	あらゆる人が驚き、地に倒れる	3 ニーファイ 1 : 16 – 17

サムエルは民に、救い主に会う備えをするよう教えた (ヒラマン 14 : 8 – 13)	教え
ヒラマン 14 : 8	神を信じる
ヒラマン 14 : 9, 13	悔い改めることによりキリストを通じて赦しを得る
ヒラマン 14 : 30	人は自分で行う自由がある

救い主の死に関する預言		成就
ヒラマン 14 : 20, 27	太陽が 3 日間暗くなる	3 ニーファイ 8 : 19 – 23
ヒラマン 14 : 21	雷、稲妻、地震	3 ニーファイ 8 : 6 – 7
ヒラマン 14 : 22	地面が砕かれる	3 ニーファイ 8 : 12, 17 – 18
ヒラマン 14 : 23	大暴風雨があり、多くの山が低くなり、多くの谷が山となる	3 ニーファイ 8 : 5 – 6
ヒラマン 14 : 24	多くの街道と多くの町が破壊される	3 ニーファイ 8 : 8 – 11, 13 – 14
ヒラマン 14 : 25	多くの墓が開かれて、多くの聖徒が人々を教え導く	3 ニーファイ 23 : 9 – 13

ヒラマン 14 : 11 「悔い改めの条件を知ることができるようにするため」

• リチャード・G・スコット長老は悔い改めの条件について

次のように教えている。

「スペンサー・W・キンボール大管長は『救いの奇跡』の中で、悔い改めを通して赦しを受けるためのすばらしい指針を与えています。それは、多くの人々が戻る道を見いだす助けとなりました。悔い改めの 5 つの基本的要素を明らかにしています。

**罪を悲しむ。**主が皆さんの過ちをどれほど重大なものとしておられるか、調べ、深く考えてみてください。そうすることは、癒しへと導く悲しみと自責の念をもたらします。またそれは、変わりたいという心からの望みと、赦しを得るためのあらゆる条件に進んで従おうとする気持ちを生じます。……

**罪を捨てる。**これは、背罪を繰り返さないという決心を、断固とした、永続するものとすることです。この決意を持ち続けるなら、罪を犯したことへの後ろめたさを再び感じる必要がなくなります。……

**罪を告白する。**皆さんは自分の罪をいつも主に告白する必要があります。不道德のような重大な背罪であれば、ビショップやステーク会長に告白しなければなりません。しかし、ぜひ理解していただきたいのは、告白が悔い改めそのものではないということです。告白は、確かに欠くことのできない段階ですが、それだけでは不十分なのです。小さな過ちだけに触れた部分的な告白は、もっと重大な、隠れた罪を取り除く助けとはなりません。……

**罪を償う。**盗んだものや損害を与えたもの、汚したものを可能なかぎりすべて元どおりにしなければなりません。自発的な償いは、皆さんができる限りのことをすべて行って悔い改めようと決意していることを主に示す具体的な証拠となります。

**すべての戒めに従順に従う。**心から従順になることにより、皆さんの生活に福音の完全な力が及び、特定の罪を捨てることに絶えず心を向ける強さが与えられます。やがて、集会に出席する、什分の一を納める、奉仕をする、ほかの人を赦すなど、最初は悔い改めを要すると感じていなかったかもしれない事柄にも心が向けられるようになります。……

さらにわたしは、6 番目の段階を追加したいと思います。それは救い主を認めることです。悔い改めに必要とされるすべての段階の中で最も大切なのが、赦しは救い主のおかげで与えられるという確信を持つことであると、わ



ボールド・キースター・ドレ



たしは証<sup>あかし</sup>します。救い主の同意があつてこそ赦しを得られるということを知る必要があるのです。」(『聖徒の道』1995年7月号, 82 参照)

• キンボール大管長とスコット長老が教えている上記の大切な要素に加え、悔い改めには変化も伴わなければならない。十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老は次のように説明している。「問題の一部と思われることは、自分で変えられることであれば変えなければなりません。……わたしたちには変わる力が与えられています。そのことを天の御父に感謝しましょう。変わる力があることをイエスに感謝しましょう。変わることは、結局は御<sup>お</sup>二<sup>ふた</sup>方<sup>かた</sup>の助けがあつて初めて可能なのです。もちろん、わたしたちが格闘している問題がすべて、自分が原因で起こるというわけではありません。ほかの人が原因となって起こる問題もあれば、現世では避けて通れない問題もあります。しかし、自分で変えられる部分があれば、変えるべきです。力が及ばない部分については、自分を責めてはなりません。このようにするとき、不完全なわたしたちが受けられる救い主の贖罪<sup>しよくざい</sup>の効力が及びます。できない部分は主が引き受けてくださるからです。」(『リアホナ』2006年5月, 70 参照)

#### ヒラマン 14:11 - 12 サムエルの教えの目的

• ヒラマン 14:11 - 12 で、預言者サムエルは自分の教えからニーファイの民が学んでほしい4つの真理を挙げている。

神の裁きを知る。

悔い改めの条件を知る。

イエス・キリストの来臨を知る。

イエス・キリストの来臨のしるしについて知る。

#### ヒラマン 14:15 - 19 贖罪<sup>しよくざい</sup>は死を克服する

• レーマン人サムエルは、肉体の死、第一の霊の死、第二の霊の死の相違、さらには救い主の贖罪によってこれらの死を克服するための方法について語っている。

**肉体の死。**七十人会長のアール・C・ティンギー長老は肉体の死と肉体の死の及ぶ範囲について定義している。「肉体の死とは霊が肉体から離れることです。アダムの墮落の結果、すべての人は肉体の死を受けることになりました。」(『リアホナ』2006年5月号, 73)

**第一の霊の死。**「主の御前<sup>みまへ</sup>から絶たれた」者が受ける霊の死(アルマ42:9)。

スペンサー・W・キンボール大管長(1895 - 1985年)は、これらの死は両方ともアダムとエバの墮落の結果である

と説明している。「わたしたちの父祖アダムとエバは神の御言葉に従わずに禁じられた木の実を食べ、死すべき体となりました。その結果、アダムとエバ、それに彼らのすべての子孫は肉体の死と霊の死を受けるようになりました(肉体の死とは霊と体が分離することであり、霊の死とは霊が神の御前<sup>みまへ</sup>から断ち切られること、すなわち霊にかかわる事柄の死を意味します)。」(『聖徒の道』1978年10月号, 6 参照)

わたしたちにとって、この霊の死は神のみもとから離れ、死すべき体をまとして生まれたときに起こった。レーマン人サムエルは神の御前から絶たれている状態を「第一の死」と呼んでいる(ヒラマン14:16)。

レーマン人サムエルは、この地上に生を受けた天の御父のすべての子供はイエス・キリストの贖罪の力を通して肉体の死と霊の死を克服すると教えている(ヒラマン14:17 参照)。他の多くの聖文もこの事実を証明している(2ニーファイ2:9 - 10; 9:15, 22, 38; アルマ11:43 - 44; 12:12 - 15, 24; 42:23; 3ニーファイ26:4 参照)。

**第二の霊の死。**第二の死は究極的あるいは最終的な霊の死である。神のみもとを離れ、死すべき肉体をまとして生まれたためではなく、個人的な罪を悔い改めなかったためにもたらされる死である。

救い主はこの第二の霊の死を克服するための助けも準備してくださっている。わたしたちの罪のために苦しめた救い主は、悔い改める機会をわたしたちに与えてくださっている。しかし、悔い改めない人には、「再び霊の死、まことに第二の死が及ぶ。彼らは義にかかわる事柄に関して再び絶たれる……。」(ヒラマン14:18)つまり未解決の罪がある人は、神の御前に連れ戻され裁かれた後、神のみもとにとどまることができなくなるということである。

十二使徒定員会のラッセル・M・ネルソン長老はこの条件について次のように述べている。

「道徳的な過ちを正す前に肉体の死が訪れると、悔い改めの機会を失います。したがって、『死の〔ほんとうの〕とげは罪』なのです(1コリント15:56)。

救い主も、わたしたちを罪があるままではお救いになれません。主はわたしたちを罪から救われますが、それには悔い改めという条件が伴います。霊の生死は、わたしたち自身の責任なのです(ローマ8:13 - 14; ヒラマン14:18; 教義と聖約29:41 - 45 参照)。(『聖徒の道』1992年7月号, 78)

#### ヒラマン 15:3 - 4 神の神聖な愛

• 主はすべての人を愛しておられるが、罪を見過ごしにされ

ることはない。ヒラマン 15:4 には、主がレーマン人を憎まれたのは「彼らの行いがいつも悪かったから」であると記されている。しかしながら、福音を教えられ、改宗するとすぐに神の愛を勝ち得た多くのレーマン人がいた。サムエルがその良い例である。

ラッセル・M・ネルソン長老は、罪を犯した人々に対する神の愛というテーマで話をしている。「これは、主が罪人を愛しておられないという意味でしょうか。もちろん、そのようなことはありません。神の愛は無限であり、普遍です。救い主は聖徒も罪人も愛しておられます。使徒ヨハネは次のように断言しました。『わたしたちが愛し合うのは、神がまずわたしたちを愛して下さったからである。』〔1ヨハネ 4:19〕ニーファイは示現の中で、主がこの世において教え導かれる様子を目にしました。そして、このように宣言しました。『……まことに、彼らはこの御方につばきを吐きかけるが、この御方はそれにも耐えられる。それは、この御方が人の子らに対して愛にあふれた優しさ<sup>あがな</sup>と寛容に富んでおられるからである。』〔1ニーファイ 19:9, 強調付加〕わたしたちは贖い主の愛が万人に向けられていることを知っています。なぜなら主は、世を去るすべての人々が再び生きるために亡くなられたからです。』（「神の愛」『リアホナ』2003年2月号, 15-16）

### ヒラマン 15:7-8 永続する心の変化

• エズラ・タフト・ベンソン大管長（1899-1994年）は、聖文、特にモルモン書はわたしたちの生活を変える力がある



ことを理解していた。ベンソン大管長は、「信仰において……確固として堅固」でありたければ、末日の聖典で教えられている教義を深く心に根づかせることが大切であると強調した（ヒラマン 15:8）。ベンソン大管長は次のように教えている。「社交、倫理、文化、教育などの側面に引かれて教会に改宗した人は、モ

ルモン書に記されている完全な福音にまでその根を下ろさなければ、現代の誘惑に耐えることはできないでしょう。』（『聖徒の道』1988年5月号, 6参照）

### ヒラマン 16:2-3, 6-8 神の守り

• 悔い改めのメッセージを伝えている間にサムエルが受けた守りは特別なものではなかった。聖典には脅迫されても奇跡的に命を守られ、その使命を果たすことのできた預言者

の例が幾つか記されている。以下の例について考え、傷害あるいは死の脅威にさらされながら、どのようにして主の言葉を伝えることができたか思い起こす。ノア（モーセ 8:18 参照）、アブラハム（アブラハム 1:5, 12, 15-19 参照）、リーハイ（1ニーファイ 1:19-20; 2:1-4 参照）、ニーファイ（1ニーファイ 17:48-55 参照）、アビナダイ（モーサヤ 13:1-5 参照）。主の僕は最終的に命を失う場合もあるが、アビダナイが宣言したように、「主が〔彼らを〕遣わして告げさせようとしたことを……伝え」終えるまでは命を失うことはない（モーサヤ 13:3）。

十二使徒定員会のロバート・D・ヘイルズ長老は次のように指摘している。

「すべての神権時代の預言者たちは、進んで命を危険にさらし、勇敢に神の御心<sup>みこころ</sup>を行い、神の御言葉<sup>みことば</sup>を宣言してきました。……

……主イエス・キリストと過去から現在に至る預言者たちの模範に倣おうではありませんか。わたしたちは、多くの預言者がそうであったように殉教者として命をささげるようには求められていないかもしれませんが。求められているのは、神の戒めへの従順さであり、主と交わした聖約に対する忠実さなのです。』（『聖徒の道』1996年7月号, 42参照）

### ヒラマン 16:2-20 預言者に対する反応

• ヒラマン 16 章には邪悪な人が預言者サムエルと彼のメッセージにどのように反応したかが記されている。エズラ・タフト・ベンソン大管長は、邪悪な人が今日の預言者<sup>こんにち</sup>に対してどのように反応するか語っている。

「預言者は俗世間の人々から必ずしも好評を博することはありません。

預言者が真理を明らかにすると、人々は二つに分かれます。心の正直な人はその言葉に耳を傾け、邪悪な人は預言者を無視するか、預言者に戦いを挑んできます。預言者が世の中の罪惡を指摘すると、世の人々は自分の罪を悔い改めるよりも、預言者の口をふさぐか、あるいは預言者など存在しないかのように振る舞おうとします。人気は決して真理の目安にはならないのです。多くの預言者が殺され、追放されてきました。主の再臨が近づくにつれて世の人々はますます邪惡になり、預言者は彼らから受け入れられなくなるでしょう。』（「予言者に従う 14 の原則」『聖徒の道』1981年6月号, 7）

以下のリストには、ヒラマン 16:2-21 に登場する人々が預言者の言葉に耳を傾けなかった理由が幾つか記されている。



1. 個人的な怒り (2 節参照)。
2. 人々は自分自身の力と自分自身の能力に頼る (15 節参照)。
3. 預言者の預言は、幾らかしかうまく言い当てられない (16 節参照)。
4. 教えの多くは道理に合わない (18 節参照)。
5. 預言者の教えは訳の分からない言い伝えであり、証明することができない (20 節参照)。
6. 預言者は偽りの奇跡を起こし、わたしたちをわなにかけ、だます (21 節参照)。

### ヒラマン 16:15, 18, 20 自分自身の力と知恵に頼る

• ダリン・H・オークス長老は、個人的な研究と理性のみに基づいて霊的な真理を判断することに警告を与えている。

「モルモン書は『自分自身の力と自分自身の知恵』や『自分の目で見ると』ことのできるものだけに頼った民の態度について描写している (ヒラマン 16:15, 20)。これらの人々は、理性に基づいて、預言を受け入れず、『キリストのような者が来ることは道理に合わない』と言った (18 節)。ある著名な教授は、これと同じ態度を執り、モルモン書を否定し、『天使から本をもらえるわけがない。まったく話にならない』と断言した。

福音の知識を研究と理性によってのみ追い求める人は、学究肌の人には時としてありがちな自信過剰やうぬぼれに陥りやすい。使徒パウロは当時の人々を観察し『知識は人を誇らせ』と語っている。また、学問のある人々に次のような警告を与えている。『あなたがたのこの自由〔知識〕が、弱い者たちのつまずきにならないように、気をつけなさい。……するとその弱い人は、あなたの知識によって滅びることになる。この弱い兄弟のためにも、キリストは死なれたのである。』(1 コリント 8:1, 9, 11) (『The Lord's Way』[1991 年], 46 - 47)

### ヒラマン 16:22

争いを広めるサタンの目的は何か。

### ヒラマン 16:22 サタンは争いを広める

• ほかの人々との争いを避けることはなぜ大切なのだろうか。ラッセル・M・ネルソン長老は、その答えは前世にさかのぼると説明している。

「主がわたしたちに『互いに言い争って』はならないと命じられた理由を理解するには、争いがどこから出てくるのかを知らなければなりません。モルモン書中のある預言者は、キリストの誕生以前にこの大切な知識を明らかにしています。……〔ヒラマン 16:22 参照〕……

争いは地球が創造される前からありました。創造とこの地上での生活に関する神の計画が初めて告げられたとき、神の息子、娘たちは声を上げて喜びました。その計画には人の選択の自由と神の御前からの墮落、それに人類を贖うための憐れみ深い救い主の存在が必要でした。聖典によると、ルシフェルはこの計画に『修正を加え』て、人から選択の自由を奪おうとしたことが分かります。……

神の計画を変更しようというサタンの身勝手な策動により、天では大きな争いが起こりました。……

この天上の戦いは流血を伴うものではありませんでした。考え方の違いによる戦いです。これが争いの始まりでした。

聖典は、争いの親が天の御父の計画に反対していることを何度となく警告しています。サタンのやり方は、この争いという感染力のある病根を利用することにあります。サタンは神御自身よりも大きな栄誉を得たいのです。」(『聖徒の道』1989 年 7 月号, 70 - 71)

### 理解を深めるために

- サムエルの時代に生きていたとしたら、これらの預言者を受け入れ、さらには彼らを擁護するために大衆に立ち向かって行ったかどうか考える。自分は日々の生活の中で、どのように生ける預言者に従っていると思うか。
- ヒラマン 15:7 は、レーマン人が大きな変化を遂げるようになったきっかけは何か説明している。聖文を知るよう導かれた後に人生が変化した経験のある人をだれか知っているだろうか。
- ヒラマン 16:22 を読む。家族や知人といつも仲良く平和に暮らすための最も有効な手段は何だと分かっただろうか。

### 割り当ての提案

- 宣教師に手紙を書く。手紙の中にサムエルの教えから自分が学んだことについて書く。そのことが日々の生活にどのように当てはまると思うか説明する。
- かたくなな心を持つことと打ち砕かれた心を持つことの違いについて、家庭の夕べでレッスンを教える。ヒラマン 16：13 – 23 および 3 ニーファイ 9：20 の聖文を使ってもよい。